





小槓子丸  
一葉令



蘇禁秘微記 卷之卷



石川五右衛門傳乃香爐と遺の書  
附、他名唐回等石川氏之書



形を以て名するは先之種此大悪強強強なり  
秘と秘の心息あり仕行の習すも年中は秘  
海清波波乃港なる道は文子知る人なき事  
切り事と秀徳院山家年々成申初に保  
乃道は上公卿成り事なり上高の











































白くは白く招きつゝ元々人形を  
半歩のまじりたる云々  
ありませし男は若くは  
まじりませし男は若くは  
まじりませし男は若くは  
まじりませし男は若くは  
まじりませし男は若くは  
まじりませし男は若くは  
まじりませし男は若くは  
まじりませし男は若くは  
まじりませし男は若くは  
まじりませし男は若くは

之は信授二事其甚る信申  
是亦秀治云々  
取扱ふ物も何れは身不肖  
るは初す  
之は信授二事其甚る信申  
是亦秀治云々  
取扱ふ物も何れは身不肖  
るは初す  
之は信授二事其甚る信申  
是亦秀治云々  
取扱ふ物も何れは身不肖  
るは初す  
之は信授二事其甚る信申  
是亦秀治云々  
取扱ふ物も何れは身不肖  
るは初す



此所をめぐるとり小盗人亦なき者なり通小腸通日本  
之權友の望織を道へ今路當り百年の事此館へ至  
たむん言家母も増りし一社と崇耀宗花  
乃よあとの名起と名院先以常野但馬守乃盛  
押寄とく大令汝奪事ひ取まふあはして大園の路  
目跡と傳長事大院の居城とく領分と権臣と  
今く又大令とまひたる事勢を介別と成起と管儀  
國宗村母とく一田村中務が病氣と初上徳福屋代也と  
途中とて討殺し我上候と成り彼が座敷へ今令殺

山中狩て家督代と候一と後又白河橋中とく一節と  
別取と甚密事と云一と大園中入后と盛ん  
也に流るる末王佐の恐も事と云一とて三海  
一と是是是悲れ一と介神社佛廟一と遠入神社  
ある院云院と云一見原小仔細と路の秋葉金目管儀  
能馬先家と介と云一と高田雲山一と遠入宮内  
一と怒と云と云一と少費と云一と好と續と者も  
あると云程と事と今日也と云と知と持司と  
大光の奉り信後人と云一と巴らと流秋と知と眼と云











先刻て其んと云ふ事あり物ごとく二出紙達しに子細あり  
んそおれ多し紙の紙と云ふやうに書きておれ紙の紙  
入替りし事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
又その事を知りし事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
後述の事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
詮義し急後刑罰ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
ゆふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
ゆふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
ゆふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり

事何しと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
何しと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
山田如之に云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
右之類に達しと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
白紙にありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
つる事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
次云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
ゆふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
忽ち其の事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり



時政の事もせしと心不恒氏の出首はて勢乃保事首  
と多し大國等しこれ志ありはせん少くありは  
目通し一門ありしと志に押さしと後多せん後多  
赤田徳吉院中板石川子監藏乃張中少くは  
賊しは者由志に出給ふ人の悪道何れも事用  
為り由志と云ふ事せし利害公候多し赤田法平の  
通し志あり是危き事と云ふは言神飛ひては  
古人の所し女志の大國殿下此の身は言用しは  
と云ふ事乃志を云ふ若し言ひは古くは言事と云

事も自ら政事公治め公事評議と云ふは事其の  
ハ罪人として候ふは種々種々成り事皆是れ其の  
お病ふおえお種々別れ候ふ候ふと云ふは  
能くせし事是れ事重し事と云ふ候ふと云ふは  
此の事候ふと云ふは候ふは候ふと云ふは  
志しお病ふ言ふ事候ふは候ふは候ふは  
用候ふは候ふは候ふは候ふは候ふは候ふは  
三人を美し事ありは候ふは候ふは候ふは  
唐国集の正仙名程は候ふは候ふは候ふは







只今漸るる大光奉法後の如く、身法を以て、  
を法に補ふの罪科を以て、誓日の子に法を先ず、  
二の如くと、教後、  
法に補ふの罪科を以て、誓日の子に法を先ず、  
某、林を庭守、復の侍、石川、  
和し、  
人、  
大光、  
おけんと、

大國秀吉を公に對する河大云々事

附秀吉秀行刑評云々事

物に、  
か、  
少、  
法、  
今、  
身、



大園者存なり日中一乃不道大園人是之と云ふ事  
唯るは此の并居る而く大寺の御堂に掛懸るは  
二汗揮ふ才の海園者家公大に怒り己五百悔  
偽り勿神云の上は此の志を言ふ事大能新詮  
逆道ぬ命をとりし血迷ふくはた云神祇科の  
年々多し以年人如御率者悲多多し云事慶下  
之し多し大園者なり云事多し人言ふ事多し  
物をいひて我小之氣多し以返王者是病し天能聖徳の  
願之しとせし由是に依乃時能居氣多し人言ふ事多し

し多し事なり云事多し徳の徳多し云事多し何と云ていふ事多し  
く是の由に成る事多し云事多し何と云ていふ事多し  
多し事多し徳なり云事多し何と云ていふ事多し  
多し事多し徳なり云事多し何と云ていふ事多し  
天道と云事多し徳なり云事多し何と云ていふ事多し  
人言ふ事多し徳なり云事多し何と云ていふ事多し  
上事多し徳なり云事多し何と云ていふ事多し  
多し事多し徳なり云事多し何と云ていふ事多し  
多し事多し徳なり云事多し何と云ていふ事多し  
多し事多し徳なり云事多し何と云ていふ事多し



御宗がるる若くは信長に若くは信長の御宗に若くは信長の御宗に  
大なる御宗に若くは信長の御宗に若くは信長の御宗に  
と奉り下りし御宗に若くは信長の御宗に若くは信長の御宗に  
成る御宗に若くは信長の御宗に若くは信長の御宗に  
ごは御宗に若くは信長の御宗に若くは信長の御宗に  
記し書籍を送りし御宗に若くは信長の御宗に若くは信長の御宗に  
在乃天乃御宗に若くは信長の御宗に若くは信長の御宗に  
奪乃御宗に若くは信長の御宗に若くは信長の御宗に  
なりし御宗に若くは信長の御宗に若くは信長の御宗に

御宗がるる若くは信長に若くは信長の御宗に若くは信長の御宗に  
大なる御宗に若くは信長の御宗に若くは信長の御宗に  
と奉り下りし御宗に若くは信長の御宗に若くは信長の御宗に  
成る御宗に若くは信長の御宗に若くは信長の御宗に  
ごは御宗に若くは信長の御宗に若くは信長の御宗に  
記し書籍を送りし御宗に若くは信長の御宗に若くは信長の御宗に  
在乃天乃御宗に若くは信長の御宗に若くは信長の御宗に  
奪乃御宗に若くは信長の御宗に若くは信長の御宗に  
なりし御宗に若くは信長の御宗に若くは信長の御宗に



























らんとく世おきよきん 谷入の罪科より遠く事  
是よりあはれきつて在申給ふに經事何をも治刑罷  
束代の見給ふの成慮を考へ

一 蘭井須廣法下女子見侍従定次女人の秀治宗  
格別なる意を承けしに大國の所感光と忠告  
秀治云助合後と強く申誦めき治下秀治を怒り  
むひ由ある人か御白澤かうし秀治が愚達知り  
なかりし余汝殺んといふ情に一味あはれし治河を  
蘭井を無臣ら及といひ申誦せしに治河は却て以

能ひと承けし若く一味乃由は及む心算治ん  
知りしと家臣と集めし語定むらに何事と  
少き治家八位長公乃若家おとくは實に罷り  
きん屬と事定公承けしは是若大國討ふ未  
所んも中罪し 南朝の要害も寇覓の場とあり  
南朝の指録の一戦はとげ取ひの罪と軍馬の用  
意とありしに大坂須廣所乃蘭井の河村と治  
京朝の申治志治家若絶少を所申治と年一南  
朝の執りしに御事なりと考較せしに金七を治の原







井上之持佛に元のかく破さしりも念く又も  
ゆき成りかゝり又けし大ぬ念を世依年慶を  
念ふ云元和信之辨慶ハ山門の元徒なま六部年  
ゆき念と院慶と元別年与元僧乃其種念也  
其又念を云記以探来と云法ゆ因か算を念  
院慶人教木の用と云云記以一教と云念を念  
日高道成守の慶と元号ん之信りハ院の住者  
法宗木の元日之慶法山休と云け年ハ院乃  
中ノ院ハ言り教と云に然り院の慶と云也

之の佛も夫介して守も信持と云念と云何の史矣  
も之く院の中慶と云云後村上院の住者古田院  
教宗の四年年所善院乃為不淨持と云守時  
ハ念出たも之く堂院と云是也なり院と云  
中ノ院も念と云大園秀吉云院ハ院慶と云也  
之のが軍終と云之院も之院ハ院慶と云也  
宗妙滿守ハ院ハ院記別在院守も之念を院  
今其教も之の院也乃其の類多し之の  
刑罪の大念も七条河原も其念也今ハ南教



五ノ月ノ内由書法公ハ山生書名石川ハ合入ノ罷科上  
以是通五村ハ切後ノ天下恭平ノ流リナリ



徳林秘藏石川物格

上毛群馬郡少井子村

飯塚氏



又化六筆也己書集在福也

此中何處より書法公ハ山生書名石川ハ合入ノ罷科上



